



NIPPON BEARING

2月26日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 年間24兆円と言われる世界の鉄道産業の中で、一番市場規模が大きいのは？

- ① 運行・保守サービス ② 車両 ③ 電力等施設

【答え】 ① 運行・保守サービス

【解説】

近年、年間24兆円規模にまで成長している世界の鉄道産業の中で、一番市場規模が大きい分野は、《列車の運行及び保守サービス》で、その割合は約40%です。

2番目に規模が大きいのは《車両》の約33%、《電力や土木などの施設》は約20%です。

出典：UNIFE（欧州鉄道産業連盟）WORLD RAIL MARKET study

形のある《車両》や《施設》ではなく、《運行・保守サービス》といったサービス面の市場規模が一番大きいことを、少し意外に感じた方も多いのではないのでしょうか？

日本は、鉄道利用者の多い国です。

様々な種類の路線が存在しているため、長距離移動のみならず、近距離での利用も可能となり、駅の乗降客数も年々増加してきました。この1年で在宅ワークは増加しましたが、通勤や通学の足として、日々大勢の人々を運んでいます。

特に都市部では、利用者の増加に対応するように、列車のダイヤはかなり過密です。

そんな過密ダイヤでも、日本の鉄道は事故の少ない安全な乗り物として信頼されています。

さらに、僅か1分の遅れでも遅延説明が放送されるほど、時刻表に正確な運行がなされています。

日本が誇る、《安全性の確かさ》と《時刻表通りの運行》は、今後益々、世界の鉄道産業における《運行・保守サービス》の分野で、活躍が期待出来そうです。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】